

# 形成外科



## ① 診療科の紹介

当科は日本形成外科学会の認定施設であり、日本専門医機構に認定された形成外科領域専門医育成における基幹施設です。形成外科領域専門医の取得に必要な新鮮熱傷、顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷、唇裂・口蓋裂、手足の先天異常・外傷・変形、その他の先天異常、母斑・血管腫・良性腫瘍、悪性腫瘍およびそれに関する再建、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、褥創・難治性潰瘍、美容外科などを網羅して研修を行うことが可能です。昭和57年より皮膚科内診療班として形成外科診療をスタートしましたが、平成27年1月には附属病院の独立診療科「形成外科」として認められ、4名の形成外科専門医が診療、研修医の教育を担当し、より高度で専門的な医療、研修が行える環境が整っています。

## ② プログラムの目的と特徴

愛媛大学形成外科専門医研修プログラムでは、日本専門医機構の形成外科領域専門医取得を目的としており、専門医を最短期間で取得することが可能です。現在までの当科出身医師の専門医取得率は100%で、現在も17名の当科輩出の専門医が県内外の大学病院、公的病院、個人病院などで形成外科診療に携わっています。近年では女性スタッフも増えてきているため、勤務形態にも配慮した無理のない研修プログラムを作製しています。

## ③ 経験目標

専門医取得を目指す専攻医の研修は毎年達成目標・達成度を評価しながら進められます。

- 専門研修1年目（SR1）：一般的な医師としての基本的診療能力、および形成外科の基本的知識と基本的技能の修得を目標とします。入院患者の受け持ちと手術助手、予診外来、シュライパーなどを行います。
- 専門研修2年目（SR2）：形成外科の手術を中心とした基本的技能を身につけていきます。研修期間中に1) 外傷、2) 先天異常、3) 腫瘍、4) 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、5) 難治性潰瘍、6) 炎症・変性疾患 などについて基本的な手術手技を習得します。比較的小規模な手術の執刀、指導医のもと外来担当医として診察を行います。
- 専門研修3年目（SR3）：マイクロサージャリーやクラニオフェイシャルサージャリーなどより高度な手術手技を習得します。マイクロサージャリーの助手や、指導医のもと比較的大きな手術の執刀を行います。
- 専門研修4年目（SR4）：チームリーダーとなり、再建外科医として他科医師と協力の上、治療する能力を身につけます。



実体顕微鏡を使ったマイクロサージャリーの練習風景

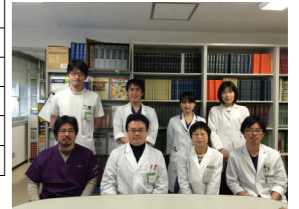
## ④ 指導医および指導体制（以下の形成外科専門医を指導医として、医員、専攻医、研修医と共に診療にあたります。）

氏名	卒業	専 門	学会資格
森 秀樹	1994	形成外科一般、皮膚腫瘍 創傷治癒、難治性潰瘍 手外科	日本専門医機構形成外科専門医、日本形成外科学会領域指導医（皮膚腫瘍、マイクロサージャリー、創傷治癒） 日本頭蓋顎顔面外科学会専門医、日本創傷外科学会専門医
戸澤 麻美	2001	先天性疾患（耳介再建、口唇・口蓋裂） 乳房再建、頭頸部再建、皮膚腫瘍 手外科、皮膚レーザー治療	日本専門医機構形成外科専門医、日本形成外科学会領域指導医（皮膚腫瘍、マイクロサージャリー、小児形成外科、レーザー） がん治療専門医
村上 達郎	2013	頭頸部再建、顔面骨骨折の治療、熱傷の治療、皮膚疾患のレーザー治療、リンパ浮腫	日本専門医機構形成外科専門医
泉本 真美子	2015	乳房再建 頭頸部再建 皮膚腫瘍	日本専門医機構形成外科専門医
上村 由美子 （非常勤）	2002	頭頸部癌切除後の再建、顔面骨骨折の治療、熱傷の治療、皮膚疾患のレーザー治療、皮膚腫瘍	日本専門医機構形成外科専門医 日本形成外科学会領域指導医（皮膚腫瘍、小児形成外科）
浅野 遥奈	2018	専攻医	日本形成外科学会会員
船木 杏奈	2020	専攻医	日本形成外科学会会員

## ⑤ 研修に関する行事

形成外科領域専門医は、初期臨床研修の2年間とその後の専門研修4年間の合計6年間の研修で育成されます。一般外来診療およびカンファレンス（火、木、金が手術日です）

	月	火	水	木	金
	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後
一般外来	○		○		○
特殊外来(再建外科)	(○)		(○) (○)		(○) (○)
特殊外来(血管腫)			(○) (○)		
特殊外来(乳房再建)	(○)		(○) (○)		(○) (○)
特殊外来(唇顎口蓋裂)	(○)		(○)		(○)
手術		○ ○		○ ○	(○)
病棟回診			○		
医局カンファレンス(WEB)	○		○		○



月曜日、水曜日、金曜日の午前8時より勉強会、抄読会、術後症例検討会（WEB会議）

水曜日16時より皮膚科との合同病理カンファレンス(WEB会議とのハイブリッド開催)

火曜日、木曜日の午前8時より手術前カンファレンス、第4木曜日17時より皮膚悪性腫瘍カンファレンス

## ⑥ 新専門研修のローテーションについて

基幹施設である愛媛大学医学部附属病院と連携施設である松山市民病院、南松山病院、済生会松山病院に加え、市立宇和島病院、愛媛県立南宇和病院など5つの施設での研修が可能です。

### 専門研修のローテーションの一例

1年目：愛大医学部附属病院 形成外科（1年）

2年目：松山市民病院 形成外科（1年）

3年目：南松山病院 形成外科（1年）

4年目：済生会松山病院 形成外科（9か月）、市立宇和島病院 形成外科（3か月）

この他にも愛媛県立新居浜病院、十全総合病院(新居浜)、市立八幡浜病院、大洲中央病院、西条市立周桑病院、済生会今治病院などに非常勤医として出向し形成外科診療を行なっています。

\*) 地域枠研修を必要とする場合は、基本的には専門医研修を優先し、専門医取得後に地域枠研修を行うこととなります。

## ⑦ 専門研修終了後について

形成外科領域専門医の取得後は、診療科の一員となって大学病院あるいは関連病院で、形成外科診療の研鑽を続け、地域の形成外科医療に携わるのが一般的な流れです。また、形成外科領域専門医の取得後は、サブスペシャリティーである日本頭蓋顎顔面外科学会、日本美容外科学会、日本創傷外科学会、日本レーザー医学会の専門医、日本形成外科学会の皮膚腫瘍外科、小児形成外科、再建マイクロサージャリーなどの指導専門医を取得し、基幹施設である大学病院、連携施設である関連病院における専門医研修の指導医を目指すことも可能です。

また、博士号取得を希望する場合は研修終了後のみならず、専門医研修と並行して進めることもできます。取得方法としては、皮膚科や他の基礎研究室で実験・研究を行って取得する方法、大学院に行かずに臨床研究で論文発表を行って取得する方法など、各人の希望に合わせた方法を選択することができます。

## ⑧ 女性医師の待遇について

形成外科は全国的に女性医師の数も多く、当科にも2023年の現在、4人の女性スタッフが在籍しています。女性スタッフは出産・育児のための休暇を希望に沿った形で取得することができます。また、平日および休日の出勤形態などについてもスタッフ間で相談の上、無理のない研修体制がとれるよう調整しています。

## ⑨ 専門研修の問い合わせ先

森 秀樹 089-960-5350 mori.hideki.mg@ehime-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.m.ehime-u.ac.jp/hospital/prs/>